

開成南小学校 学校だより

みなみの風



平成
30年
5月

初夏の日光で 6年生が 自然や文化を 学んできました！

5月8日(火)
～9日(水)

GW 終了とともに、今年は早い時期に6年生の日光修学旅行が実施されました。県西地区の小学校の中でも一番乗りだったようです。既に夏日を何度も記録している開成町とは違って、日光市は市街地でも標高 600mの高原地帯です。中禅寺湖畔は 1,300mにも及ぶ高地になります。今年の早い夏の訪れに反して、予想外に気温が低く、特に朝晩は真冬の気候でした。当日は、時節柄、曇天や小雨でしたが、浦中学年主任曰く「趣のある風情」を堪能し、異郷の自然に親しむとともに、歴史の重みや往時を偲びながら、無事に戻ってきました。

「日光を見ずして結構と言うな。」と、昔からよく言われますが、東照宮やその装飾模様や彫刻芸術のすばらしさを目の当たりにして初めて、言葉の意味や歴史的経緯を実感することができました。

ひんやりとして霧に煙る華嚴の滝や間近で見た湯滝、竜頭の滝など自然の造形美にも感動を覚えました。

長時間乗った電車の車窓からの風景も美しかったです。電車内で友達と過ごした楽しい時間、そして何と言っても、みんなで泊まった旅館内でのひとは、一生の思い出となることに間違いありません。

土産話はたっぷりありそうです。楽しみにしてくださいね。



おいしい“お米づくり”は けっこう たいへんなのですね！

4月26日(木)

5月10日(木) 他



宅地化・都市化が進む学校周辺ですが、開成南小では地の利を生かし、5年生が、町内生産者である米づくり農家の工夫や努力、効率的な生産を支える人々の協力などを理解しながら、現代そして未来の消費者の安全までを考えた農業生産のあり方について学習し、自らの意見をまとめています。



今年も、開成南小の南側で米づくりを行っている府川さんの協力を得て、実際に田圃へお邪魔したり学校へゲストティーチャーとしてお越し頂いたりして、プロの農家の実際を、見聞や体験させていただく学習に取り組んでいます。バケツでの育苗指導や農作業の体験も行っていますが、いわゆる”おいしいとこ取り”ではなく、陰や裏にある「苦労」や「工夫」なども学び、将来の自分自身にも役立ててほしいと考えます。

多くの方々も体験してきたでしょうが、アサガオの栽培から始めてヒマワリやヘチマなど、植物の成長を通じ学びや気づきを深めます。

夏に向かうこの時期、2年生は昨年度に植えておいた、チューリップを掘り返し、球根を採取して学習しました。また、3年生は、ヒマワリの発芽を試み、GW明けには本葉が出始めました。植物の力は偉大です。土の中で育っていく様子を観察していると、子どもたちも、元気をもらえるようです。



県西地区および開成町は、農業の魅力あふれる地域であり、自然の恵みを本格的に学びます。



先輩として あらためて「ようこそ 開成南小へ！」 4月27日(金)

入学式から一カ月が経ち、慌ただしい中にも生活の規則正しいリズムが、なんとか落ち着いてきました。1年生も小学校の生活に慣れ、自分のペースを築きつつあります。

一か月間頑張ってきた一年生を励まそうと、2～6年生の主催による“一年生を迎える会”が開催されました。この日の一年生の為に、プレゼントの制作や入退場のエスコート、迎える言葉の呼びかけ、校歌斉唱、全校ゲームの実施など、「喜んでもらおう」「楽しんでもらおう」「頑張ってもらおう」と、始業式直後から、企画委員会や児童会が中心となり、開成南小の“先輩たち”として、着々と準備を進めてきました。

心のこもった温かい思いやりに、一か月の疲れもすっかり消え去り、ゴールデンウィーク前のほのぼのとしたひと時となりました。



“のばそうよ 健康寿命 歯みがきで” ～歯科検診～



5月17日(木)
5月31日(木) 予定

毎年6/4からの一週間は、「歯と口の健康週間」です。それに合わせて、開成南小学校でも歯科検診を行い、歯や口腔の健康状態をチェックしています。検診では学校歯科医さんが、①健康、②要観察、③要治療/要精密検査の3段階にわけ、御家庭にお知らせしています。

これは、学校保健安全法第3節の規定に基づいて行われているもので、“子どもが健康診断の体験を通して、自分の歯や口腔の健康状態を具体的に知り、健康の保持増進に対する意欲を一層高めること”をねらい、他の健康診断共々と併せて実施しています。

1970年代には子どもの9割超にむし歯があったそうですが、最近では半数程度にまで減ってきているとのことです。これは予防対策の徹底が功を奏した結果であるとも言われていますが、効果的



であればなおさら、意識して予防や早期治療に努めたいものです。子どものむし歯が減少した代わりではないのかもしれませんが、子どもの“歯肉炎”が大人の“歯周病（歯肉炎）”に進行しないようにする取り組みにも注目が集まっているようです。

歯は毎日使う大切なものですが、歯医者さんでの治療を苦手とする人も多いのではないかと思います。歯のみならず口腔内の健康にも意識し、神奈川県西部でも取り組んでいる“未病の改善”にもつながっていきましょう。

季節のたより

もうすぐ梅雨の時期になります。梅雨と言えば、「傘」が付きものですが、誰もがきっと、お気に入りの傘があると思われます。

傘は元々、日よけのための道具であったそうです。雨具として一般的になったのは、日本では室町時代以降のことで、蓑や菅笠などに代わって僧侶や医者たちが愛用しはじめました。西洋では18世紀頃から雨具として使われ始めたので、和傘には日本古来の文化があります。

第二次世界大戦後、軽くて防水性に富み安価に大量生産できる洋傘が主流になり、ジャンプ傘や折り畳み傘、ビニール傘などと進化を続けてきています。以前、“大雨でも濡れない大きめの傘”を求め、ゴルフ用の傘を使ってみたこともありましたが、重くて嵩張ってしまうことには閉口しました。今は「やや大きめ、加えて安価で軽く使いやすい」「ビニ傘」もあって便利です。

「雨は鬱陶（うつとう）しい……」と思う機会は多々ありますが、雨降りを楽しめるような心のゆとりももちたいものですね。童謡「あめふり」や「雨降るお月さん」、県西

地区に縁のある演歌歌手の「雨」、神奈川県出身の故ロックミュージシャンの

「Weeping in the rain」、ミュージカル映画でも有名な「雨に唄えば」、CMや映画のBGMでも有名な「雨にぬれても～Raindrops Keep Fallin' On My Head～」

など、雨にまつわる曲をさりげなく口ずさみながら、お気に入りの傘をさしての散歩を楽しみたいですね。（担当）

